

課題別評価表(5)

取組課題	担当名／担当者名			
人権教育	人権教育担当／森田 如美			
取組の柱	実態把握			
<p>人権についての認識を深め、共通理解の上に立った、組織的・計画的な人権教育の推進</p> <p>1.様々な体験やいろいろな人との交流を通して、互いに認め合い、支え合うことができる学級集団づくりの実践</p> <p>2.差別を見抜き、差別を許さない感性と行動力をもつ児童の育成に向けた実践や研修の充実</p> <p>3.保・幼・中、地域や保護者と連携した人権教育の推進</p>	<p>本校の児童数は約800名である。多くの友だちとかかわり、それぞれのよさやちがいを認め合い、支え合うことができる関係を築ける環境にある反面、新しい環境でのたくさんの出会いには、不安を抱く児童も少なくない。日々の活動を見ていると、ほとんどの児童は友だちと楽しく活動しているが、中には担任・教員を通して友だちとかかわろうとしたり、限られた友だちということで自分の居場所を作ろうとしたりする児童もいる。その根底には、子どもたちのかかわり合う力の弱さがあると感じる。それゆえに、友だちに対しての決めつけが感じられ、気になる場面が見られたり、相手の気持ちを考えたり自分の気持ちを伝えたりすることができずにトラブルになったりすることもある。そこで本校では、児童がお互いを大切に、かけがえのない存在として認め合う学級集団づくりに取り組んできた。子ども一人一人をしっかりと見つめ、思いを知ることから、子どもや学級の課題を把握し、その解決に向けて、あらゆる教育活動を通して思いを開き合い語り合う学級集団づくりに努めてきた。子どもたちはお互いのよいところを見つけたりちがいを知り合ったりして、それぞれの思いに気づくようになってきた。また、自分の気持ちを伝えていくことの大切さにも気づくようになってきている。</p> <p>例年、児童の実態把握、学級集団づくりの検証として、児童に『学校生活調査』というアンケートを行っている。昨年度は「いじめはいけないことだと思う」と全児童が回答し、「学校が楽しい、どちらかという楽しい」と回答した児童は97.9%、「気軽に話せる友だちがいる、どちらかという」と回答した児童は98.4%であった。しかし、「自分にはよいところがあると思う、どちらかというと思う」と回答した児童は89%であり、今後も自己肯定感を育む実践や取組の必要性を感じる結果となっている。</p> <p>児童の実態を把握したり課題を解決したりするために、日々保護者との連携を図るよう努めたり、人権学習授業参観や保護者懇談会を行ったりしている。また、実践交流会や人権教育研修会などを重ね、教師自らの人権感覚を高めるように努めている。小中がより一層連携して人権教育を進めるために、昨年度は『南が丘小中一貫人権教育カリキュラム』を作成した。</p>			
			評価方法	教職員アンケートを中心とする 教職員による自己評価 (項目により対象者の幅は異なる)
			達成度の判断基準	教職員の評価の平均 A : 3.5以上 4.0以下 B : 3.0以上 3.5未満 C : 2.5以上 3.0未満 D : 2.5未満

評価項目 (具体的な取組)	評価基準	達成度 ※網掛けは昨年度			
		中間	中間	年度末	年度末
1.互いの良さを認め合い、それぞれの持ち味を活かしながら、生き生きと活動できるような学級集団づくりに取り組む。	児童は学校生活を楽しむことができた。(「学校生活は楽しいですか」という児童への『学校生活調査』からの評価)	97.8% A	97.2% A	97.9% A	97.2% A
	日記の交流を行ったり、『ほめ言葉のシャワー』を行ったりするなど、子どもと子どもをつなげる活動を月2回以上行うことができた。(教職員アンケートからの評価 具体的な取組を記述)	/	3.6 A	/	3.7 A
2.身の回りにある問題(差別)に気づき、解決しようとする児童を育成するとともに、教師自らの人権感覚を高めるための研修を深める。	いじめや差別をなくそうとすることや、自己肯定感を育むことをねらいにした人権学習を年間3回以上実践するとともに、『学級集団づくり実践交流会』や『保幼小中人権教育研修会』を通して、自らの人権感覚を高めることができた。(教職員アンケートからの評価)	3.6 A	3.7 A	3.7 A	3.7 A
3(1).児童の実態を把握し、それぞれの課題を解決するために、保護者との連携を図る。	児童の実態を把握したり課題を解決したりするために、連絡帳や家庭訪問等を通して、保護者との連携を図ることができた。(教職員アンケートからの評価)	3.6 A	3.7 A	3.8 A	3.7 A
3(2).保・幼・小・中・地域や保護者と連携した人権教育に取り組む。	保幼小中合同人権教育研修会や人権学習授業参観、保護者との懇談会を行うとともに、『南が丘小中一貫人権教育カリキュラム』を基にした実践や取組をすすめることができた。(教職員アンケートからの評価)	3.5 B	3.5 A	3.8 A	3.6 A

達成度については、 A:十分に達成できた B:おおむね達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

中間評価	総合評価	年度末評価		総合評価
9月末の達成状況		12月末の達成状況		次年度への申し込み
<p>『第1回学校生活調査』では、「学校が楽しい、どちらかという楽しい」と回答した児童は97.2%、「気軽に話せる友だちがいる、どちらかという」と回答した児童は98.6%、「自分には良いところがある、どちらかという」と回答した児童は87.9%となり、これらの結果は昨年度のもの比べて変動は少ない。学級担任は、居心地の良い安心できる学級集団を目指して『学級遊び』係活動『お誕生会』を行ったり、互いの良さを認め合うとともに自己肯定感を高めることを目指して『ほめ言葉のシャワー』『今日のキラキラさん』『いいことみつけ』を行ったりするなど、子どもと子どもをつなげる活動や自己肯定感を高める活動に意図的に取り組んでいる。今後も、『南が丘小中人権教育カリキュラム』を基にしたながら、居心地の良い学級づくり、そして特に自己肯定感を育む実践の一層の推進に努めていかなければならない。</p> <p>7/29には『子どもの生活を語る会(学級集団づくり実践交流会)』、8/3には保幼小中合同人権講演会『じぶんまる！～性って誰かに決められるもの?～』を行うなど、教師自らの人権感覚を高めるように努めている。児童の実態を把握したり課題を解決したりするために、日々保護者との連携を図るよう努めている。11月には人権学習授業参観・学級懇談会を予定している。子どもたちの学びを保護者や地域の方に発信し、人権についてともに考えることができる機会としていきたい。</p>	A	<p>1.『第2回学校生活調査』では、「いじめはいけないことだと思う」と全児童が回答し、「学校が楽しい、どちらかという楽しい」と回答した児童は97.2%、「気軽に話せる友だちがいる、どちらかという」と回答した児童は98.2%、「自分にはよいところがある、どちらかという」と回答した児童は87.2%となり、これらの結果は前回や昨年度のもの比べて変動は少ない。学級担任は、1学期に引き続き、子どもと子どもをつなげる活動や自己肯定感を高める活動に意図的に取り組んでいる。今後も居心地の良い学級づくり、そして特に自己肯定感を育む実践の一層の推進に努めていきたい。</p> <p>2、3(1).11月には人権学習授業参観・学級懇談会を行った。事前に全教職員で指導案検討会を行い、各学年が取り組む人権学習のねらいや内容について検討し、共有した。授業には保護者や地域の方だけでなく、中学校の教職員も参観し、小学校でどのような人権学習を進めているか把握してもらう機会となった。参観後の保護者懇談会では、人権学習のことについて保護者と共に話し合ったり、考えたりすることができた。</p> <p>3(2).『南が丘小中一貫人権教育カリキュラム』を基にした実践や取組の進捗状況を把握するために、12/14に小中一貫人権教育推進部会を開いた。各学年の報告から、カリキュラムに基づいた実践が進められていることがわかった。今後も取組を進めながら、カリキュラムの検証も進めていきたい。</p>	A	<p>1.互いに認め合い、それぞれの持ち味を活かしながら、生き生きと活動できるような学級集団づくりの実践</p> <p>2.身の回りにある問題(差別)に気づき、解決しようとする児童の育成</p> <p>2.自己肯定感を育むことをねらいとした取組の推進</p> <p>2.教師自らの人権感覚を高める研修の充実</p> <p>3.保・幼・中、保護者、地域との連携</p>

総合評価については、 A:達成度の過半数がA C:達成度の過半数がCまたはD B:AとCの間